

第2回 緑化フェア幹事会 議事録

令和5(2023)年2月27日

■次第と記録記載頁

1	開会	3
2	川崎市市制100周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェアの取組状況について	4
	資料説明	4
	意見交換	13
3	実行委員会第2回総会の提出議案について	26
4	その他	28
5	閉会	28

■日時と場所

日時：令和5年2月27日（月）午後2時45分～午後4時30分

場所：川崎市教育文化会館 3階第6会議室

■出席者

幹事（出席9名、1名欠席＜米川幹事＞）			
	分野	氏名（敬称略）	所属
1	学識	福岡 孝則	東京農業大学地域環境科学部造園科学科 準教授
2	協働推進	栗原 国男	公益財団法人川崎市公園緑地協会嘱託 東京農業大学地域環境科学部地域創成学科 非常勤講師
3	出展展示	深町 貴子	園芸家：多摩区在住
4	交通対策	米川 僚一	一般社団法人 川崎市交通安全協会 専務理事
5	会場運営	渡辺 広之	京都芸術大学芸術教養センター 客員教授
6	行催事	反町 充宏	一般社団法人 川崎市商店街連合会 理事・青年部長
7	広報・PR	大西 絵満	かわさき市民放送株式会社 代表取締役
8	植物調達	矢澤 和洋	セレサ川崎農業協同組合営農経済本部組織部組織支援課 課長代理
9	植物管理	今井 伸之	川崎市造園建設業協同組合 副理事長
10	飲食・物販	萩原 ひとみ	一般社団法人 川崎市観光協会

公益財団法人 都市緑化機構 上野 企画調査部長
事務局（木村次長 石垣課長 他）

■配布資料

全国都市緑化かわさきフェアの取組状況



会議の様子

■会議録

1 開会

事務局（木村次長）

それではお揃いになられたようですので、ただ今から第2回緑化フェア幹事会の方を開催させていただきます。本日はお忙しい中、当幹事会に御出席いただきまして誠にありがとうございます。また、事前の視察の方にお付き合いいただいた皆様につきましても、大変ありがとうございます。お疲れ様でございました。

それでは議事を進めるにあたりまして、本日の幹事会は公開とさせていただきますので、本日の会議録には個々の皆様のお発言者の氏名をお記載するということをあらかじめ御了承いただければと存じます。なお、本日、事務局以外の本市職員も出席しておりますことを、あらかじめ御了承ください。また、記録、あるいは資料作成等の関係で委託業者の方も参加してございます。また、本日、米川幹事におかれましては所用により御欠席と伺っておりますので、あらかじめ、御了承いただきたいと思います。

それでは、まず資料の確認からさせていただければと存じます。お手元に資料をお配りしてございますが、本日の次第、座席表に続きまして、A3横綴じの全国都市緑化川崎フェアの取組状況という資料がございます。

もし何かございましたら、会議の途中でも結構でございますので、事務局までお申し出いただければと存じます。それでは、これからの進行につきましては、福岡幹事長にお願いをしたいと思います。

よろしく願いいたします。

2 川崎市市制 100 周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェアの取組状況について

福岡幹事長

それでは私がここから進行を務めさせていただきます。続きまして。次第 2 の「川崎市市制 100 周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェアの取組状況について」に移らせていただきます。御説明をお願いいたします。

事務局（石垣課長）

緑化フェア推進室の石垣でございます。

先週に資料を送らせていただいておりますが、中身は結構変わっておりまして、実はまだ今でも変えたいところがたくさんある資料でございます。今後も、今年度末に向けて修正等を加えながら、来年度の計画策定につなげていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

1 頁 目的・基本事項等の説明

まず、全国都市緑化かわさきフェアについてです。目的といたしまして、将来像として、みどりでつなげる、暮らしやすく住み続けたいまちを目指して、みどりが持つポテンシャルを効果的に活用し、これまで培ってきた川崎の強みや各地域の特色を生かし、多様な主体がつながり、重なり合うことで行動するきっかけとしての市民総参加型のフェアとなるよう取組を展開していきます。その下、括弧 3 の各種事業計画の対応状況でございます。表の見方ですが、1 番左に事業計画、分野ごとの計画が書いてございます。それを右に追っていくように時系列で並べております。第 1 回の幹事会で主な論点としてお示しさせていただいたものから、1 月に実施いたしました個別ヒアリングでの主な意見を踏まえまして、現在の状況を 1 番右側に記載してございます。2 枚目以降がこの内容を細かく説明した資料となっております。

まず、基本的事項といたしまして、開催期間をまず論点として挙げさせていただいております。1 月にヒアリングをさせていただいた中で、春の会期を遅らせた方がいいのではないかという御意見をいただき、考慮したところ、1 番左下に書いてございますが、案といたしまして令和 6 年 10 月 19 日（土）から 11 月 17 日（日）までの 30 日間を秋、そして春を令和 7 年 3 月 22 日（土）から 4 月 13 日（日）までの 23 日間とさせていただきたいと考えております。

続きまして市民総参加型ですので、協働推進計画を 1 番最初に置いております。フェア終了後も継続できる協働推進の仕組みづくりなどを論点として挙げさせていただき、子どもたちや企業等の参加を促すような仕組みが必要だという御意見をいただいております。それにつきましては様々なメニューを作った方が良いというような御意見もいただきましたので、様々な市民がこういった形で参加できるかというような多様な参加メニューを用意するといった内容を整理しております。続きまして 2-1 会場計画でございます。こちら

は主要駅から会場間の資源の生かし方というところで論点を挙げさせていただいておりますが、エリアに色々取組を落としていった方がいいとか、色々な既存のイベントがありますので、そちらと連携していくべきといった御意見をいただいております。1月には、多様性×みどりということ、空間を通して見せていくべきという御意見や、グリーンインフラを見せ物というものではなく、これまで関係がなかった方々が繋がるとか、そういったような効果を見せていくというスタンスで広く構えていくことが大事だということでございます。それぞれの会場の特徴をしっかりと出していけると良いという意見もいただいております。それらを踏まえまして、会場計画の基本的な考え方、それから会場構成の考え方、そういったものを整理しておりますので、後ほど御説明をさせていただきます。続いて、出展・展示でございます。こちらは秋から春にかけて、間が空いてしまうのですが、10月に仕込んだものは3月に花開くというようなストーリー性を持ったものができるという御意見をいただきましたので、その中断期間に市民や企業が一緒に関わる仕組みが必要ではないかというところでございます。そういった考え方を現在整理しているところでございます。

2-3 植物調達・管理というところでは、地域と連携した効率的かつ効果的な花卉調達の手法や、使ったものをそのまま捨てるというのではなく、無駄にならない花卉等のリサイクル方法を論点として挙げさせていただいております。委員の皆様からは開催時期にどれくらい調達ができるかというのが少し不安だという御意見もございましたので、そちらにつきましては市民協働という視点での花卉調達の基本的な考え方を整理しておりますので後ほど御説明させていただきます。

2-4 飲食・物販といたしまして、市制100周年記念事業と連携していくというところでございます。川崎育ちはそもそも収穫する量が限られているというところですので、早い段階から調整が必要だという御意見をいただいたところでございます。ヒアリングでは、インパクトのある企画と一緒にできると良いという御意見もございました。こちらにつきましては、飲食・物販に参加する事業者の皆さんにも、緑化フェアのコンセプトについて共感をしていただき、一緒に作りあげていくというような視点でできたらと思っております。

続きまして3会場運営・交通輸送についての考え方ですが、第1回目の論点では、警察との調整が重要だという御意見がございました。1月のヒアリングでも、マイカーの抑制など色々検討材料があるというところもございました。今回につきましては、指定管理者が等々力緑地、富士見公園においてそれぞれ、今後決まっておりますので、こういったところとの連携、役割分担が必要だという整理をしております。

最後の広報宣伝・行催事につきましては、第1回幹事会において、参加する方をどういった面白いイベントに引っ張っていくのかというような御意見をいただきましたので、インパクトのあるイベント、それから川崎のコンテンツというものを大事にしたプログラム、そういった仕組みで目玉作りを行い、周知することによって、広報戦略と一体的に取り組んでいくという考え方を整理しております。

資料 1 : 2 頁 「2 各種事業計画 協働推進計画」の説明

2 枚目を御覧ください。こちらは各分野の計画になってございます。1 協働推進でございます。目的といたしまして、市民総参加型のフェアの実現というところで、市民の誰もが参加できる多様な関わり方を互いに尊重しながら、自分にとってのみどりとの関係性を見直し、作るきっかけを提供していくという目標、目的でやっております。目標といたしましては、延べ人数ではございますけれども、市民 154 万人が何らかの形で緑化フェアと関わってもらうことを目標としていきたいと思っております。右側の図でございますけれども、そのために何をしていくかというところで、まずフェアを知ってもらうというところで、関わっていただく、来ていただく、それから、もっと関わってもらうためには、市民協働という考え方の中では魅力的なコンテンツを取組として提示することによって、その取組がフェアで花開いたり、直接的にフェアには結びつかなくても、みどりとの関係性を何か新しいステージに持っていけるというような魅力的なコンテンツを提示して、それを広報していくというような一連の流れを表しております。(3) につきましてはターゲット層の設定として、より多くの人々にみどりと触れ合っていただく、みどりと繋がっていただく、そういったところを各自の関心事からアプローチをしていくということを考えて、ターゲットをしっかりと持って進めてまいりたいと思っております。同じく、(4) アプローチの方法といたしましても、我々行政側ですと普段から関わっている方とはよくお話をするのですが、普段役所と関わりがない方、そもそもみどりはあまり関わっていない余裕のない方々、そういった方々にどうやったらフェアに対して関わっていただけるか、フェアを知っていただけるか、そういったところを色々な選択肢を用意して展開をしていきたいと思っております。右側の取組につきましては、特にこの後、会場のボランティアもございますので、強制的にならずに、負担感を与えずに、どうやったら楽しんでいただけるかというような視点で多様なメニューを設定していけたらと思っております。

3 ページを御覧ください。ボランティアや参加の仕方をもう少し具体化したものでございます。計画段階、準備段階、開催段階、それから開催後のレガシー段階。色々な段階があるかと思っておりますけれども、それぞれの市民のやれるもの、やりたいもの、そういったものをどうやって活かしていくのかというものを整理したものでございます。そのためには、参加をする上で、何か誇りになるような仕組みや仕掛けが必要で、共通のアイテム、シンボルを作ってやっていくというところもありますし、例えばディズニーランドですとキャストみたいな言い方がありますけれども、そういった名前をつけて参加をしていく、そういったところが今後必要になってこようかと思っております。課題といたしましては、やはりみどりにそもそも関心がないという方がいますので、そういった方々の、みどりとの関係性をどう変えていくかというところは、やはり今後も色々試行錯誤をしていく必要があると思っております。また、子どもの参加というところでは、現在、学校等と調整もしておりますが、花苗の育成等や、会場での参加の仕方、そういったところを今後も詰めていきたいと考えております。また、多様な主体、多様性というところを謳っておりますので、こちらにつきま

しては障害者をはじめとした様々な方々がどうやって参加できるか、そういったところも今後詰めていく必要があるかと思っております。具体的には、下のスケジュールで10月にボランティア募集と書いてあります。1年前にはボランティアの募集をしていきたいと思っておりますので、それまでには必要なメニューを提示していくということが重要かと思っております。

4 頁 みどりの共創プロジェクト等の説明

4 ページを御覧ください。こちらは先ほど参考資料のところでも御説明させていただいたみどりの共創プロジェクトとして今年度取り組んでいるものでございます。企業との共創、企業のアイデア、色々な方々のアイデアを募って、掛け合わせることで何か新しい価値が生まみ出していけるのではないかとということで、モデル的に実施をしているところでございます。3月1日には福岡幹事長はじめ、深町さんにも御参加いただき、シンポジウムを開催してまいりますので、こちらにつきましては、こう御期待というところでもお願いしたいと思っております。

5 頁 会場計画・基本的な考え方の説明

5 ページを御覧ください。

こちらから会場計画になっております。先週の金曜日と今日、会場を御視察いただいたかと思えますけれども、こちらを仕立てていく上での基本的な考え方というものをまとめております。会場計画では5つのキーワードを持って取り組みたいと思っております。「持続可能」、「すべての人」、「みどりでつなげる」、「多彩なみどり」、「多様な効果」、こういったものを会場で表現をしていきたいと思っております。コア会場では、これら全てを表現する。協賛連携会場では少なくとも1つを取り入れて、設定をしていきたいと思っております。あらゆる市民や来場者が楽しめる会場作り、生物多様性に配慮した出展展示、それからかわさきフェアをきっかけとして、川崎の緑を知って、活かす取組を全市的に展開、全国的に発信というところもでございます。

会場構成の考え方でございますが、富士見公園、等々力緑地、生田緑地、こちらをコア会場として設定しております。コア会場と主要駅を結ぶところとその周辺を合わせてエリアと呼んでおります。そのエリア内の主要なランドマークになるようなところとして、駅などを協賛連携会場と言いますけれども、市民総参加を市内で一体的に進めていきます。また、コア会場のない区でも、協賛連携会場として日常の活動や取組をフェアを通じて発信していきたいと思っております。このような取組、コンテンツを用意することで、多くの市民、企業、団体がみどりに関わる機会を創出していきたいと思っております。また、下の囲みにもございますけれども、3会場を繋いで1日で回るというところは基本的には設定しておりません。一つ、一つのコア会場周辺のエリアを周遊するというような形を基本として考えております。

右側の2期開催による事業構成の考え方についてです。こちらもかわさきフェアの特徴でございます。秋と春の2期設定を考えておりますので、それぞれの見せ方、季節を感じさ

せる取組というところを考えております。また、中断期間がございますので、秋に仕込んだものが春に芽吹いて花開くような、そういった取組ができれば良いと思っております。また、秋開催で使用したものを、そこで終わりにするわけではなくて、例えば中断期間で何かをするとか、中断期間も維持管理をして春もそのまま使えるとか、そういったことを考えております。秋については、みどりに関わるきっかけ作りというところを中心に、出展・展示をしていきたいというところと、各種イベントが実施される時期でございまして、富士見公園においても、市民祭りが11月の最初の3連休に行われますし、国際環境技術展という川崎の環境技術を発信する全国的に発信するイベントをちょうどこの秋開催の最終日に当てているような状況でございます。春開催につきましては、そういった取組の発表の場として展開をしていけたら良いと思っておりますし、次の100年に向けた市民それぞれの新しい環境に向けたみどりの活用を提案していきたいと考えております。

6～8頁 コア会場・エリアの説明

続きまして、各エリアのコンセプトを踏まえた各会場、構成の考え方というところで、次のページからの3ページが、それぞれの個別の考え方になります。富士見エリアについては、エリアコンセプトは、「多様性」×みどり、等々力エリアは、「体験・体感」×みどり、生田エリアは「文化・歴史」×みどりです。6ページを御覧ください。富士見公園でございます。「多様性」×みどりということで、協働・共創による川崎の多様な魅力、文化技術を反映したみどりと公共スペースの利活用を展開し、あらゆる人々がみどりの価値に触れ、実感できる空間を創出することをコンセプトとしております。エリアとしてはやはり、川崎駅という魅力的な空間でございますので、こちらをどう活用するかというところ、それから駅から会場まで、皆さんもしかしたら歩かれたかと思えますけれども、ここをどう魅力的に会場まで引っ張ってくるかというところが重要だと思っております。今後、まだできていないとか、まだ始めたばかりというところがございますけれども、関係者間協議というところが重要になってきますので、しっかり協議を行い、取組を展開していきたいと思っております。右側が先ほど御覧いただいた富士見公園の大まかなゾーニングの考え方でございます。おもてなしとコンセプトの発信を展開するエントランスゾーン、グリーンインフラゾーン、ライフスタイルゾーン、緑豊かなスポーツ活動ゾーン、屋内コンテンツゾーンと5つ作っておりますけれども、それぞれ多くの皆様に楽しんでいただけるコンテンツを作りたいと思っております。富士見公園の方は、再編事業者等と会場運営について協議が必要になってきます。こちらについても引き続き実施していきたいと思っております。

7ページを御覧ください。等々力緑地でございます。コンセプトは「体験・体感」×みどりということで、地域の様々なみどりや水辺等を活用し、みどりを身近に感じ、リラックスしながら自由な時間が過ごせる空間を創出します。スポーツやアクティビティを中心とした様々な体験・体感の場を創出し、地域のコミュニティーの核となる魅力的なみどりとオープンスペースの活用につながる取組を展開してまいります。こちらは駅が3か所あり、メインアプローチはどこというところはあるのですが、基本的には小杉がやはり交通結折点

でございますので、小杉の駅前の空間を活用した取組や、二ヶ領用水、多摩川という水資源もでございますので、こちらを活用した取組が必要かと思っています。また、この周辺は市民活動が盛んなところでございますので、そういった方々との連携イベントも重要になってまいります。右側は等々力のゾーニングの考え方で、大きく3つに分けております。体験・体感コアゾーンというところで、催し物広場、正面広場、こちらが比較的自由にできるところかと思っています。その他、既存のスポーツ施設等がございますので、その活用についても、再編整備が決まっておりますので、新たな指定管理者と調整をしていく必要がございます。

次のページを御覧ください。生田緑地でございます。こちらは「文化・歴史」×みどりということで、協働のプラットフォームである生田緑地マネジメント会議と連携し、これまで培ってきた協働の取組を活かして、歴史・文化を楽しみながら学ぶ様々な取組を展開します。こちらにつきましては保全と活用、こういった両者が好循環する仕組みというところを大事にしていきたいと思っています。こちらにつきましても向ヶ丘遊園駅、こちらから生田緑地までの回遊性、アクセス路、こういったところを地元の方々のまち作りの取組と合わせまして、さらなる賑わいの効果を作りたいと思っています。また、生田緑地の中には文化施設がございますので、体験型プログラムも色々組めるのかなと思っています。あと、山がありますので、あらゆる人々が楽しむという意味では、少しバリアになってくるところがございますので、そういったところを解消する仕組みを導入していきたいと考えております。右側がゾーニングの主な考え方でございますけれども、こちらも指定管理が入っておりますので、その中で会場運営等を分担していくのかといった協議をしていきたいと思っています。また、ボランティア活動が盛んなので、そういった方々の活動を見える化するという取組も重要と思っています。

9頁 協賛連携会場の説明

9ページを御覧ください。協賛連携会場についてでございます。基本的な考え方としては、市内の様々なみどりとオープンスペースを活用して、日常の活動や取組を、フェアを通じて発信し、市内全域でフェアを盛り上げ、一体感を醸成していくというところがございます。それぞれの暮らしの中で市民がみどりとのかかわりを持ち、みどりに親しんでその効果を実感できるような取組を身近なところでやっていただくというところがございます。参考と書いてあるところは、昨年度基本計画骨子を作るときに、各区役所から、こういったところでやっていきたいという御意見をいただいたところがございます。右側の協賛会場、連携会場というのは、大まかにこういうものですよという整理をしたところがございます。明確に1個の場所を今度どちらかに分けるというのではなく、同じ会場でも協賛会場の面があったり、連携会場の面があるというところで、合わせて協賛・連携会場と呼んでいるところがございます。協賛会場については、基本的には開催期間に限らず、フェアの趣旨に賛同して取組を展開する場所。連携会場については、開催期間中に実施していく場所というところで考えております。この身近なところでフェアを感じられるスポットとして、色々な

方々に参加していただきたいというところで、イベント等の公募等をして盛り上げていきたいと考えております。それぞれの区でどこが一番自分たちでやっていきたいかといったところを調整して進めていきたいと思っております。また、協賛連携会場という名前も分かりにくいので、少し名前を変えることも考えられたらなと思っております。

10 頁 出展・展示計画の説明

10 ページの出展・展示でございます。最初は言葉の定義でございます。

展示というのは、フェアの意義や理念を主催者が表現するもの、出展というのはフェアの実行委員会のルールに基づいて、様々な主体が作品を展示していただくという考え方でございます。こちらについては、多様なみどりを活用し、様々な分野の取組と連携して本市の魅力や強みを発信する取組を展開していくところでございます。また、既存の活動団体の方々が多くいらっしゃいますので、せっかくの機会としてスポットライトを当てて、また次に繋がるように、元気づけていきたいと考えております。また、秋から春へのつなぎというところや、例えば夜の見せ方、やはり観光的な視点もございまして、インスタ映えとかそういったところも作っていく必要があると思っておりますし、展示につきましては、富士見公園で花苗装飾を市民の方が参加して作り上げていきたいというところと、川崎区というかつては公害の悪いイメージがございましたけれども、そういった、公害の歴史を乗り越えて、今、新しい川崎ができていくということで、これから次の 100 年へ繋げていくというところを展開していきたいと考えております。等々力緑地につきましては、造園や園芸だけでなく、色々な企業のアイデアが発表できる空間を作っていければ良いと思っております。生田緑地につきましては、これまでの協働の取組がございましたけれども、そちらをベースといたしまして、新たな取組等が発信できたら良いと思っております。右側につきましては、主な出展メニューと既存のフェアでもやっているメニューを書いております。概ね各会場でこういったことを考えているというものを載せております。

11 頁 植物調達・施工・管理計画の説明

11 ページを御覧ください。植物調達・施工・管理計画です。こちらの基本的な考え方を一言で言うと、無理をしない、無理をかけないと、そういったところでございます。市内の生産団体と連携、協力して一時的な市場の需給状況の影響を最小限にしながら、調達体制を作っていきたいと考えております。とはいえ、川崎で作られている花卉植物を積極的に PR することで、フェア終了後の需要にも続くような取組ができれば良いと思っております。また、川崎の 7 区の花がございまして、これらも会場で見せられるようにしていけたら良いと思っております。当然ですけれども、市民総参加というところで市民や市内企業と連携して植物の施工管理等を行っていききたいと思っておりますし、フェアで使用した植物を一過性で終わらせないというところも重要だと思っております。調達先というところでは市内の農家から直接というのが理想ではあると思いますが、市内の農家さんたちも基本的には市場に出しておりますので、そういう意味では市場調達というところでも市内産を使うという考え方になるかと思っておりますし、市民協働による花作りとして、例えば小学校

で、今我々の想定では11万株と想定していますが、そういったものを富士見公園のメインガーデンに使用したり、また、障害をお持ちの方々の福祉ガーデンのようなものやっていたいと思っておりますし、それでも賄いきれないものは、市場から調達をしていきたいと思っており、市場から調達する上でも市内、県内、県外というような順番で調達をかけて市内経済を循環させていければと思っております。

右側の植物施工・管理です。こちらもただお金を払って業者さんをお願いというところではなく、市民協働体制作りを大事にしていきたいと思っておりますし、たとえ1年草を使ったとしても、それを堆肥化したり、各地で再利用していただいたり、大事にしていきたいと思っておりますし、パンジー、ビオレについては、うまくいくと長く持つというようなお話もありますので、そういったところを専門の方々に指導をいただきながら展開していければと思っております。

12 頁 飲食・物販計画の説明

12ページを御覧下さい。飲食・物販でございます。こちらにつきましては、地域のお祭りでも出店があるから行くという方もいらっしゃると思います。緑化フェアということで、緑化意識の向上などの目的はございますけれども、やっぱり緑以外の切り口に、どう取り込んでいくかということが、ここでは重要な視点だと思っております。やはり我々は緑化フェアを通して何をしたいか、何を見せたいか、そういったところがございますので、共感を得られる方々に出展をしていただくことを考えております。当然、フードロスやリサイクル材、SDGsの要素を入れていただきたいというところで、そういったところからみどりが生活に関わっているということを感じていただけるような飲食・物販にしていきたいと思っております。通常、半年ほど前に出店の公募をして、2ヶ月ぐらい前に説明会等を行うスケジュールになっていますので、来年度につきましては、そういったところのコンセプトをしっかり作って展開していきたいと思っております。

13・14 頁 会場運営計画・交通輸送計画の説明

次のページを御覧ください。次の2ページが会場運営、交通輸送の考え方でございます。こちらにつきましても市民総参加というところで、色々な場面で市民に関わっていただきたいところと、安全というところの面から専門的な支援が必要なところもございますので、効率的、効果的な運営を考えているところでございます。交通輸送につきましては、先ほど申しました通り、3会場を周遊するバスみたいなものは基本的には作らないところですが、生田緑地の高低差をなんとかできるような新たな仕組みみたいなものは考えていきたいと思っております。

次のページを御覧ください。現在の検討状況というところで、会場を円滑に運営するためにはこのような組織が必要というものを書いており、交通輸送計画を検討するにあたっては、既存の交通輸送能力等の調査を進めているところでございます。右側の写真にはイベント時の駐輪事例と書いてありますが、川崎は自転車利用が多いので、そこをどうしていくかというのが、実は一番課題かと思っております。いずれにいたしましても、様々な既存団体

と連携して市民に幅広く関わっていただきたいと思います。

15 頁 広報宣伝の説明

15 ページを御覧ください。広報宣伝でございます。効果的な広報宣伝の考え方でございますけれども、市制 100 周年記念事業でも同じことを言っていますが、やはり、ただ広報をするだけではなくて、いかに魅力的なコンテンツを作ってそこに参加していただくか、というような広報と一緒にやっていくところが大事であると思っております。現在も色々なところにヒアリングしているところではございますけれども、特にみどりと今まで関わりのなかった人たちがみどりと関わりを作っていくようなところを、4 月以降やっていきたい。令和 5 年度については、4 月と 10 月に重点的に広報していきたいと思っております。令和 5 年度につきましては、緑化フェアってこういうものです、ここでやるといった基礎情報をお知らせいたしまして、令和 6 年度については、会場でこんなことをやるとか、ワクワクするようなものを展開していきたいと思っております。それに合わせて、色々なコンテンツに参加してくださいというような、関わってもらいたい広報というものを展開していきたいと思っております。資料の右上が、3 月 24 日の実行委員会でお披露目をしたいと思っている緑化フェアのポスター案でございます。葉が 7 枚あり、葉の 1 枚 1 枚に本当は意味があります。その葉の形を組み合わせて 7 区の木・花を図案化しています。

機運醸成に向けた取組として、今年度は、我々何もノベルティなどの武器を持たずに、現地でブースを出しましたので、区民祭などの際に、某テレビ番組を真似して、「せっかく〇〇区に来たなら、〇〇のみどり見に行けばいいじゃん！」というのをやりまして、許可を撮って写真を撮らせていただいております。この写真が 300 枚以上たまっていますので、例えばそれをモザイクアートにするなど、色々展開していきたいと考えております。

16 頁 行催事計画の説明

最後に行催事計画でございます。こちらも行催事という言葉が分かりづらいので整理しました。行事というのが公式の式典、催事というのがいわゆるイベントと考えていただければと思っております。右側にはやるであろうというイベント、行催事が書いてあります。その他に(4)の全国都市緑化祭として、こちらは緑化フェアの中心的行事といたしまして、国土交通省、都道府県、都市緑化機構、開催市、この 4 者で別途実行委員会を作り、実施するものでございます。皇室の方をお迎えして、普段、緑の活動をされている方が、ふれあう機会を作り、そういったところで今後の励みになるというところでお呼びをして実施するものでございます。こちらにつきましては、秋開催の際に、カルッツかわさき周辺、富士見公園周辺で実施したいと考えております。

説明が長くなってしまいましたが、以上でございます。

意見交換等

福岡幹事長

御説明ありがとうございます。

それでは、幹事の皆様から御意見をいただきたいと思えます。非常に多岐に渡っておりまして、内容も細かくなっていますが、どなたからでも構いませんので、御意見のある方は挙手をお願いいたします。

はい。それでは矢澤委員。

矢澤幹事

意見とまではいかないのですが、J A セレサ川崎では広報という形で、川崎の花きPRと緑化フェアの周知も含めて昨年の10月と今年の2月バレンタインの時に市内産のパンジー、ビオラと馬絹の花桃を全37支店の組合員や来店者に対して配布をいたしました。馬絹の花桃は2月22日に福田市長にも贈呈している有名な花きです。来年度も継続的に緑化フェアの開催に向けて取り組んでいく予定です。また、このセレサの行事以外でも、何か市内産の花弁の使用を活用するようなイベントなどがありましたら、お声がけいただければぜひとも全体で盛り上げていきたいと思えますので、よろしくお願ひしたいと思えます。

福岡幹事長

はい、ありがとうございました。渡辺委員、お願ひします。

渡辺幹事

最後のページの行催事には委託発注という言葉が出てきていますが、それぞれの項目で外部に委託する予定のものや内製化するものなど、バランスがあるかと思えます。すべて外部に出すわけでないでしょうから、その辺の方針はどのような感じですか。

石垣課長

まず来年度につきましては、後ほど来年度の予算案を説明させていただきますけれども、基本実施計画というものを作っています。その後、それに合わせて各会場の実施設計をしていきたいと思っております。そういったところは、委託事業者の知見を活用して進めていきたいと考えているところがございます。それから、魅力的な取組をしていくというところがございますので、アイデアもいただきたいところではございますが、そういったところは実行委員会の参加企業さんや皆様と意見交換をして作りながら、実際の運営について一部委託事業者、いわゆるイベントの委託みたいところはしていきたいと思っております。また、例えばホームページなど、広報の細かいところまで、1から10すべて事務局で行う訳にもいきませんので、そういったところも委託事業者を活用していきたいと思っております。

ます。

福岡幹事長

ありがとうございました。

それでは、反町委員お願いします。

反町幹事

今日は下見にもお伺いしたかったのですが、間に合わず、大変失礼いたしました。

今、色々御説明をお伺いしまして、これだけの内容を御説明いただくと、いろんなイメージが浮かんできてワクワクするし、申し上げたいこと、細かいことを言うと、凄いたくさんありすぎるぐらい、いろんなアイデアが浮かんできているところです。その中で、今委託という話も出たところで、私も、本業がやはり川崎に拠点を置いて、広くイベント関係のお仕事を色々やらせていただいています。特に、この緑化フェアで何かをやりたいということではないのですけれども、弊社は、とにかく市内のいろんな資源、人材もそうですし、こういった物のとか製造や人材、そういったものも全部含めて、とにかく川崎にこだわっていくことを常日頃から大事にしており、そんな中でこういったイベントを作っていく上では、当然いわゆるプロのイベント会社さんの協力というのは不可欠だと思っているところです。やはり、今、私の中で浮かぶだけでも、川崎はかなりいろんなイベント会社さんがいて、比較的私はどことも仲が良いと思っています。ある意味、同業他社としてライバルみたいなのところもあると思うのですけれども、その関係性で、ここだという時には、協力し合う、助け合うっていうのがやはり必要だという考えもありまして、いわゆるイケイケな企業さん、イベント会社さんなど、いくつも浮かぶところです。ぜひ、そういう地元のイベント会社さんを大事にしたいというところで、こういう緑に特化したイベント会社さんはぱっとは浮かばないのですけれど、ただこういった緑とか、いわゆる今の若者の方にも受け入れられるような、すごくセンスのいいお洒落なデザインとかが得意なイベント会社さんは川崎にいらっしゃいます。そういう情報があるので、ぜひ川崎のそういうイベント会社さんの情報はできる限り御提供するので、使っていただけたらと思います。

福岡幹事長

ありがとうございました。

次に深町委員お願いします。

深町幹事

すごく細かく説明していただいて、着々と進んでいるのだな、準備が進んでいていいなと思いました。ただ、着々と進んでいる一方で置いてきぼりにならないようにしないとイケない。結果はもちろん大事なのだけれど、一番大事なのはプロセスだと思うので、少しずつ

緒に作り上げていくように。今回のかわさきフェアは市民総参加じゃないですか。だから一部の人だけではなく、みんなで参加できるような仕組みというのがすごく大事だと思うので、その中でなるほどと思ったのが、緑に関わりがある人と関わりがない人、ちょっと遠い人とかも含めて市民総参加ですよ。そうすると、例えば、秋と春の開催時期ですが、特に春は年度が変わって一番忙しい時じゃないですか。そうすると、なにか協力したいけど、春はなかなかできないので、やるのだったら秋がいいなという意見を聞いたんですけど、花ってまさに秋に仕込むと春に出てくるようなものもたくさんある。例えば、みんなが知っているものではチューリップ、ちょっと知らないところではランキュラスといった花があるので、そういった球根ものがちょうど10月に仕込んで3月の末から春、4月に向けて出てきて花開くのです。そうすると、10月ぐらいのちょうどフェアの時に向けてパンジーとか背の低いものを、さらにその時に参加した人たちが球根を仕込んで、その後1回お休みが来るけれど、冬の間しっかりと根付いていって、春に芽が出てきて、これがどういうふうに咲くのだろうっていうので、もう1回春に見に行かなくては、という気持ちになる。こうしたストーリーとして繋がるようなものがあると良いですね。

もう一つは、コア会場のところだけが盛り上がりすぎて、なんかそこだけよね、ということになってしまいがちなんです。だから「私の緑化フェア」じゃないけれども、そこだけではなくて、個人個人、一人一人の自分の緑化フェアみたいなもので参加できるようになったら良いと思います。コア会場から離れている小学校であっても、中学であっても、1人暮らしの中であっても、自分の緑化フェアという形で参加する方法があると、すくい上げるのは行政の仕事ですけれども、そういうのがSNSでもいいですし、ポスターでもいいですし、終わってみると、自分が参加できたね、となると良いなと思います。そうすると、コア会場まで行けなくても、自分の一番近い小学校に行くと、その小学校にその小学校の緑化フェアがあって、それが見えたり写真が撮れたりとかで、それで終わってみると、全員が緑化フェアが終わったね、となれると良いなと思いますね。

ちょっと取り留めもないですけども、そのように繋がるなものになると良いと思います。

福岡幹事長

今の御意見に対して、事務局から何かあればお願いします。

事務局（石垣課長）

まさにおっしゃる通りだと思います。1月のヒアリングの時に、やはりコア会場以外の会場の取組を花開かせて、そこを市民が色々行ったり来たりするというのが、みどりでつなげる、みんながつながるというテーマと合っていて、市民総参加というところでは、やっぱりその場所も大事だなというところもございまして、いろんなストーリーを持って、次の100年に繋げていくストーリーというところをいかに仕込めるかっていうところが大事だ

と思っておりますので、アイデアをいただきたいと思っています。

深町幹事

是非、頑張ってくださいと思います。

ランキュラスでしたら、7つの色が全部あります。球根を最後、3月のフェアが終わったら掘り上げて、それを持ち帰れば毎年花は咲きます。そういうのも良いと思うし、切り花としてもできるので、メンテナンスをしながら、その切り花を施設にプレゼントしたり、おばあちゃんやおじいちゃんにプレゼントしたりということもできるので、このように、広く長く使えるものを上手く選択していただいて、長く楽しめるような仕組みができると良いと思います。

福岡幹事長

ありがとうございました。そのほか何かございますでしょうか。

それでは栗原委員、お願いします。

栗原副幹事長

まず、現場を見させていただいた感想をお話しさせていただきたいと思います。今日、富士見公園を見させていただいて、やはり、等々力や生田とは全然違うという感じでした。駅からずっと歩いて会場に入ってみたんですけど、川崎の今までの発展の歴史みたいなものが、もしかしたらこの公園にあるのかなという印象を非常に受けました。それで、先ほど再編整備の御説明をお聞きしましたが、やはり、新しく作っていく、今までの歴史を踏まえて作り変えていくという中で、多様性、グリーンインフラなど色々な言葉が出てきて、新しいライフサイクルの見本になるのを提案していくのだらうと、非常にわかりやすいなと思いました。ただ、敷地自体がかなり限られており、建物がある中で作っていくので、そこで無理やりグリーンインフラをやるというのはかなり厳しいのではないかという印象を受けたので、もしエントランス広場まで少しエリアを拡大するような形で、本来のグリーンインフラの良さみたいなものを表現できるともっと良くなるんじゃないかという気がしました。

二つ目は、先週行った生田緑地ですけれども、やはり、地形的に移動が問題であるとありましたが、やはり川崎を代表する多摩丘陵の自然というのは見事だなと思いました。特に、あの森の中にメタセコイアの林が出てきて、なんか森の中の森という印象が私としてはあったのですけれども、奥に岡本太郎の美術館があったりということで、自然の中にあるメタセコイアっていうのは、本来ちょっと違うのかもしれないのですが、緑化という意味で、アートというような捉え方をすると、非常にインパクトのある演出ができるのではないかと、それも非常に楽しみだなと思いました。

等々力ですけれども、先ほど、事務局の方から、それぞれ3つの会場を1日では回れな

い、それを繋ぐようなことはしないと説明がありましたが、それは正解だと思います。小杉から等々力緑地まで歩いて行って、やはりその中で、会場以外のところでも見るところがたくさんあるというのを教えていただきました。そこを繋いでいくということがすごく大事だと思います。ただ、等々力緑地に入ってちょっと気になった点があって、ここにいろんな展示をされる時に、元々あるベースとなる樹木です。広場の木だとか、あるいは桜並木の桜だとか、そういった木が、ちょっと元気がなかった。ちょっと物足りないという印象がありました。勢いとか生育という部分で、せっかくお花とかで演出していくのであるならば、やっぱりそういった木も少し何か工夫をされた方がいいのかなと感じました。

やはり、等々力は水というのがあるので、多摩川までなんとか上手く動線で繋いでいきたいというのはあります。特に等々力緑地自体に芝生広場とか草の場所でくつろげるという場所がないので、そういう場所をぜひ、多摩川の方にうまく導いていただくと、さらにその多摩川から新丸子であったり、二子玉川とかまで行けるかわからないんですけども、そういった周辺に展開していても面白いのかなと思いました。それとやはり、4月の時期の多摩川は非常に綺麗です。桜があったり、それから、浜大根があったり、カラシナの花があったりってということで、やはり多摩川も川崎の原風景なので、そういった形で広げていくと非常に面白いかなという印象を受けました。以上です。

福岡幹事長

ありがとうございます。今の御意見に関して事務局から何かありますか。

事務局（木村次長）

確かに整備や管理の問題であったり、様々な要因はあると思うのですが、確かに桜並木はだいぶ弱っている状況が見られるんですけども、先ほどの御発言の趣旨として、工夫をというお話をされていましたが、こういったイメージをお持ちなのかももう少し伺えるとありがたいと思います。

栗原副幹事長

先ほどグリーンインフラというお話もあったので、逆に、2年間かけて、樹勢回復の取組として、こんな元気がなかったものを、フェアに向けてこんな元気になったんですみたいな形で、何か取り組んでいったらいいのではないかな。逆に、それを隠すとか、植え替えるとか、作り直すとか、そういうことではなくて、そういったものも材料にしてしまったらどうかかなと思いました。

事務局（木村次長）

ありがとうございます。

視察の途中、池のほとりの藤棚を御覧いただいたかと思うのですが、だいぶ樹木自

体が古く、管理をしていなかったのも、だいぶ荒れたような形になっていたのを、3年ぐらいいかけてなんとか花を咲かせられないかなというので、以前トライアルしたこともあるんです。例えば、そんなようなことを今からやっていって、もう少しアピールできるような工夫をするという御提案ということで承りました。

栗原副幹事長

何ができるかは考えてみたいと思います。

事務局（木村次長）

中央園路に良い桜並木があったんですけども、こちらはもうほとんど移植をしまったり、切ってしまったりしてないような状況なので、その辺もどう見せられるかというのは考えていきたいと思っています。ありがとうございます。

あと、多摩川までというお話もございましたけれども、等々力緑地は多摩川に近い場所でもございますので、途中に多摩沿線道路という割と交通量の多い通りもありますが、上手くそこを使って多摩川の方に誘導するとか、あるいは駅からのアプローチでも何か工夫できないかなど、ぜひ多摩川を使っていきたいと思っております。等々力の会場計画の中にぼやんと落としています。今後、どんな形で使えるかというのは、また、皆様から御意見をいただければと思っております。

福岡幹事長

ありがとうございます。

少し会場の話が出たので、私からも何点か発言させてください。資料でいいますと6ページから8ページのコア会場の計画に関してです。

だいぶ開催も迫っていますので、もし可能であれば、次回からはもう少し解像度の高い会場計画案などを見せていただいたほうが良いと思いました。等々力緑地と富士見公園、両方の課題としては、やはり諸施設の間です。例えば、競輪場の間の壁ですとかフェンス、それから、サインなど、結構いろんなところで空間が分断されているという状態が散見されました。施設の整備だけではなく、全体の地のランドスケープと言いますか、それを調えることでだいぶ良くなると思いました。きちんと全体を安全に回れる回遊性だとか、グリーンインフラに関して、水の話に限定的なものではなく、みどりを活かした暑熱緩和なども重要な視点です。例えば富士見公園では、会場内で日陰が連続的に創出されており、芝生広場の周辺には木陰で休める場所があるなど、環境性能に関してもしっかりと計画していかなければならないと思いました。その他簡単できることを申し上げますと、壁やフェンスなどを無くし、繋げるものを繋げるという物理的な空間操作も富士見公園では非常に即効性があり有効な手段だと思いました。一方で、富士見公園はかなり地下水位も高いですし、条件としては雨水の一時的な貯留は可能ですが、浸透適地ではないかもしれません。長期を見据えて公園内の会場の地形・排水・動線・植栽をグリーンインフラを意識して計画することで、きち

んとレガシーを残せるような骨組を整えていくという視点は大事です。

二つ目は川崎緑化フェアの売りでもある、市内で展開されるみどりの活動と、この会場がどのように繋がってくるのかという点です。イベントやプログラムと会場計画を切り離さずに、この6ページ、7ページ、8ページにどのようにして活動やプログラムを踏まえた会場計画にするかをシミュレーションすると良いと思います。どこでどんな活動ができるか、利活用と会場の空間計画が整合してくるとイメージが付きやすいですね。言い換えると、単なる緑化フェアの会場計画ではなく、みどりの共創プロジェクトの舞台装置を計画設計する意識をもち、演じる方々を繋げていくような整理が必要だと思いました。そのような整理ができると緑化フェアの参加イメージも明確になり、議論も盛り上がると思います。

事務局（木村次長）

ありがとうございます。

我々といたしましても、ただいま御指摘頂いたところは非常に大事なところだと思っております。会場でどういうふうに見せていくかということと市民協働は全てセットで組み上げていかななくてはいけないと思っていますので、その意味で、幹事長からいただいた、「解像度を上げて」というところはまだまだ模索段階ではあるのですけれども、色々とコンテンツを載せたようなものを至急整理させていただいて、また幹事の皆様から御意見を頂戴できるようにしていきたいと思っています。

福岡幹事長

ありがとうございます。

多分、3つに整理できるのではないのでしょうか。活動としては、来た人が楽しく、そこでピクニックをしたりとか、楽しんだりなど、「日常的に豊かに使える」が一つ目です。次に、「自主事業」的なものです。公園には自主事業というのがありますけれども、どちらかという開催者側でこういう雰囲気会場を作りたいとか、演出をしたいとか、こういう事業をしたいということ、仕掛けていくようなものがあると思います。三つ目は、「公募事業」的なものではないでしょうか。公園の指定管理の中で多様な市民の参画を実現するために取り入れている事業者もあります。この緑化フェアの会場でこんなことがしたい！と手を挙げた人が自分達の企画・活動を実現できる仕組みです。現在、緑化フェアのイベントやプログラムは、全ての市民の活動としているため茫漠としていますので、骨組みが整理されると、どこに私が入ったら参加できるのかということが、わかりやすくなるのかなと思いました。あとは、川崎市のホームページも結構見っていますが、緑化フェアに関わろうと思ったらいつ、どこで何ができるのかというのが、今はわかりにくい状態ですので、年間カレンダーなどを作成頂き、私の区だったらこういうことに参加できるとか、ブレイブサンダースの試合の後に横でなんかガーデンづくりに参加できるなど、緑化フェア関係のプログラムとイベントを同じまな板に載せてわかりやすくする。広報の仕方で色々な可能性が開けると思います。

そのほか、ぜひ御意見あればお願いいたします。

大西委員お願いします。

大西幹事

広報、PRの観点から言うと、資料内に「知ってもらう」という広報と「関わってもらう広報」と記載がありますが、2ページに参考情報としてPRの動機付けについて記載がありました。まさにこの話題作り、話題性、イメージ、それから、趣味や喜びとか社会貢献とか、そういったものがキーワードとして関わってくるのかなと思います。知ってもらう広報と関わってもらう広報では、地域密着情報を取り扱うテレビ、新聞、ラジオとなどの活用が非常に重要になりますけど、これに加えて、どこで広報をしていくのかということがすごく重要だと思います。現状の動きですとホームページとポスターの展開がメインになっているように見受けられますが、ホームページにどうたどり着くか？どういうモチベーションでサイト訪問してもらえるか。もしくはポスターのある場所を通りすぎる方々にのみしかリーチできない可能性がある。そうなったときに、今の新しい世代の皆さんへはやはり各種SNSの展開を仕込んでいくか、その設計が非常に重要だと思っています。そこについてはもう少し具体的に展開のイメージを作っていくかといけないうのだろうと思っています。広く面で広報していく部分と、メインターゲットを決めてピンポイントで広報していく部分の2軸です。結構たくさんの展開を今日御説明いただきまして、本当に多くのイベントなり、場所の中でこれから情報が出てくるんだろうなと想像できましたし、それについては、イベントの告知というのが上手く伝わるような取組をしたいですね。先ほどお話ありましたけど、大前提、どのエリアでいつ何ががあるのかということがわかりやすく伝わるということが必要。それから、深さもやはり重要だと思っていて、イベントの開催告知にとどまらず、例えば、キーワードがある、いろんなストーリーがある、関わっている人たちのストーリーもそうですね。先ほど皆さんの話を伺っていて、なるほどと思ったのが、桜並木があまり元気ないという話。私も視察に伺った時に確かに、これがこの春に一気に芽吹いて花がつくのかなと、私もちょっと不安になるようなエリアがあったりしまして。でも、例えば、もし開催の時期に合わせて皆さんが一生懸命、元気のない桜の木に対して何か取り組んだことで状況が変わると。広報の展開としては、様々なところでこういうストーリーがあると思うので、広報できるといいなと感じました。

あとフェアの全体としては、やはり川崎で緑化フェアをやるということにあたっては、特に街のイメージ、面白さ、新しさというキーワードは重要なキーワードの1つだと思います。広報の観点でこれからアイデアや企画として出てくるものの中で、例えば共創プロジェクトの中で皆さんから出たいろんな御意見とか企画の中で、しっかりと「これを、コアなコンテンツ、PRネタにしていこう」というふうに落とし込んで漏れなく拾っていくような、そういったことは必要だと思っています。これから、より具体的なお話になるにあたり、どこにフォーカスをしてPRしていこうとか、広くこれをやろうとか、そういったことの選別

なり戦略を作っていけると良いと思っています。

福岡幹事長

ありがとうございました。事務局の方、よろしいですか。

事務局（石垣課長）

はい、しっかり受け止めて参ります。

福岡幹事長

それでは、次の方。今井委員お願いします。

今井幹事

植物調達の手ですけれども、調達先として市内農家から調達、市民協働による花苗育成、市場からの調達の3つの調達が必要と思っていたのですが、どの調達に関しても、具体的な数字で、例えばパンジーについては10月末以降ならば調達できる可能性はありますけど、何万株、何十万株なのか、球根もありますし、この辺がやはり今の段階ではちょっと難しいかもしれませんけど、早めに数字を出していかないと。いざ発注となった時に、種類、数量をできるだけ早めに出していければ、市場なりで押さえることができるので、ちょっと早めをお願いしたいなと思います。

事務局（木村次長）

ありがとうございます。まさしくおっしゃる通りでございますので、先ほどの福岡幹事長のお話ともちょっと重なってくるのですけれども、会場でどのようなものを見せていくのかということを描いていくのと合わせて、並行してというより、先に花の考え方というのをきちっと出していかなくてはいけないかなとは思っています。川崎で何を見せていくのかとか、一般論としては、近隣の八王子ですとか横浜でもフェアをやっているのですが、この時期にどういうお花があるのかというのは、リストアップはしていたりもするんですけども、それをストーリーと合わせてどう見せていくのか、どんなカラーを打ち出していくのかというところで、御意見を頂戴しながら決めていく必要があると思っています。規模感によってある程度の数というのは算出できるかと思っていますのですけれども、それも、その樹木とどう掛け合わせにするのか、お花だけにするのかとか、その辺も、おそらく議論をさせていただきながら決めていく必要があるかなと思っておりますので、早めにその辺の絵を共有させていただいて、次に進めていけたらなと思っております。

福岡幹事長

ありがとうございます。それでは、萩原委員お願いします。

萩原幹事

ロゴのデザインから区の花も作られて良いなと思ったのと、よくここまでされたなと思います。この計画も、本当に今までのところでよく凝縮されています。会場も直に見せていただいた。あの広さの中でフェアを成功させるために、色々なきゃならないというのが良くわかったのですが、先ほど深町さんがおっしゃったみたいに、自分の学校での関わり方ってというのは、例えばこの地区に、例えば飲食だと公募があって、応募してそこに店出します、キッチンカーを持っていきますとか、これを売りますとかという、その人たちだけの参加の話になっちゃっていて、当初、ずっと前から言っていた、そのフェアの期間、川崎市内のホテルとかレストランとかで川崎育ちなどを使えると良いねって思っていたとしても、結局この中に何も入ってないので、それもなくなったのかなと。街としてこう盛り上げる、参加するっていう仕組みがこの中には書いてないので、どう参加したらいいかわからないっていうところが一つと、あと輸送経路なのですが、すごくおっしゃることもわかるんですけど、例えば緑化フェアの時の少なくとも土日ぐらいは、富士見と等々力を結ぶバスぐらいはあった方が良いでしょう。やはり全然1個ずつだと、1個完結で、3日間で行くような人ってなかなかいないので、主なところの2つぐらい、確かに生田と結ぶのは難しいかもしれないし、すごく混むから無理っていうような話もあったのですが、生田と等々力を結ぶのもあると、結構、良いのではないかなと思います。多分、それを補う意味でも、プロジェクトマッピングもそうだけれども、ディスプレイかなにか高いと思うのですが、なんかするとしたら、スマホ上で情報が見られるとか、そういう仕組みで繋がっていくとすごく面白いので、街として盛り上げる、響き合うみたいな感じが良いのかなと思っています。

あと、イルミネーションですね。ナイトイルミネーションだったり、プロジェクトマッピングだったりというのは、ぜひどっかでやってもらいたいと思いました。多分、それが呼び物になって、街に人が来るのではないかなと。住んでいる近所の人が行くだけじゃなくて、どこからでも知ってもらおうという点でも良いかなと思いました。以上です。

福岡幹事長

ありがとうございます。

事務局（石垣課長）

今、おっしゃっていただいたところは、我々としても検討の足りていない部分だと思っておりますので、引き続き、検討していきたいと思っております。

富士見をどう結ぶかというのは大きな問題だと思っておりますので、少しそこは、なかなかどう実現できるのかはすぐには答えられないのですが、VRとかプロジェクトマッピングとかは考えていきたいと思っております。

一番重要なのは、やはり市内全体でどう盛り上がっている感を出すかというところかな

と思っております。会場とか、場所場所でどう盛り上がっていくかというところはあるんですが、全体としての盛り上がり感みたいなのをどう表現できるか、展開できるか、そこが確かに文字として落ちてないので、引き続き検討させていただきたいと思っております。

福岡幹事長

今の御意見をお聞きして思ったのは、他自治体でもそうなのですが、どうしても、緑化フェア自体を成功させるために、事務局の方はどんどん内向きになっていくんですね。俯瞰的に会場周辺、街全体とか市全体とか、や市民協働などに頭がいなくなってしまう、取り残されるという問題があります。もしかしたら、体制の問題なのかもしれません。緑化フェア会場の計画や事業に集中すると、3会場だけを見るだけでも多分すごく大変な準備だと思いますが、同時に常に多部局を巻き込み市全体でみどりの共創プロジェクトを振り付け、その両方のバランスをとっていき、その辺りをどのように進めるかが大事だと思います。

はい。まだ、少しお時間あります。渡辺委員お願いします。

渡辺幹事

先ほどの質問で、プロジェクションマッピングとか言われましたが、その時間帯をどうするか。夜の時間。今日は富士見を見ましたけど、やっぱりデイトムは良いのだけど、夜にどうするのか。結局、この都市緑化フェアを通じて、3つの公園は残るし、都市も当然残る。何を残せるかで、そのトライアルを緑化フェアではどんどんチャレンジして、そういう呼びかけをして、そういう方々に、ぜひ参画してくださいというような仕掛けがあると思います。時間帯として、これは全部平たく夜やるのか、土日だけ夜開催するのかなど、色々ありますよ。そういうものはもう御検討が多分されていると思うけど、ぜひやられて、やっぱりその魅力みたいなものが当然あると思うので、いろんな仕掛けとして、さっき川崎のイベントの話もありましたけど、やはり川崎で色々チャレンジしてみたいところはあると思うので、そういうことをぜひ呼び水になるようにして、次に残るような、単発的になんかやるというのではなく、共創という考え方で、市制100周年事業で繋いでくってことはわかりましたけど、やはりそういうものをぜひやってほしい。それと、数値って表向きに出しちゃうと1人歩きしてしまうが、どのぐらいの成果を見るのか。集客といってもなかなか難しいと思うのですね。でも、参加者が市民全員って言った時に、どのぐらいの参加を皆さんが見込むのか。学校も含めて、そういうもくろみの皮算用をどこまで表に出すかどうかというのもあるけれど、それはぜひ、さっきの植物調達についても同じように、やっぱりそういう数値も目標にして、それでその中で成果として何を残していくのかみたいなことも合わせて、ぜひやっていただくといいかなと思いました。

事務局（木村次長）

ありがとうございます。

夜の使い方に関しましては、我々も色々と考えていきたいと思っておりますけれども、1つは富士見公園の再編整備の中でも、せっかくのリニューアルにあたっては、やはり市街地から近い公園でございまして、夜にどのように使っていくかというのは、検討課題とさせていただきます。それをフェアでいかに実験できるのか、トライアルできるのかというところは、ぜひ考えていきたいと思っております。

あと、目標値みたいなお話も、まだまだ工夫が必要かなと思っております。

渡辺幹事

そうですね。これは綺麗に切れないところもあるので、とは言いながら、結果だけ待っていて、これでしたっていうのももちろんあるのだけど、待っていてもね。

あともう一つなのですが、いろんな参画者なのでですけど、アーティストとか、僕も大学にいるものですから、もちろん大学系もあるのだけれど、そういうアプローチというのはもちろん、ランドスケープとか多様な方々、専門性を持っている人とか、専門というよりも、そういうことの場合としてやるみたいなお考え方は整理していますか。

事務局（木村次長）

川崎市としても、やっぱりアートの取組というのを展開しているところもございまして、今、そういったところと何かうまく連携してできないかという検討を始めています。ぜひ、その辺があまりアンバランスにならないような形で、まずはその富士見公園を使って何かできないかというところは考えておりますが、また、その辺の考え方も少し整理したいと思います。

福岡幹事長

今の渡辺幹事の話に便乗しますと、多分各会場でも、一般の市民の方達に参加していただく以外に、やはり美しいガーデンをつくったり、食のプロフェッショナルなど、多くの才能が必要です。「川崎育ち」というのは野菜ですけども、川崎で活躍されているアーティストの方、これから育てていただきたい方たちを20人ずつとか、ぜひ緑化フェアを通じて実現できればと思います。よくあるのは有名な方を呼んできて、この方が言っていることを実現するというタイプの博覧会・緑化フェアもあります。そうではなくて、市のアーティストとか、ガーデンデザイナーもたくさんおられると思います。もしかしたら既にそのような検討や取り組みも進んでいるのかもしれませんが、どんどん攻めの姿勢で探しにいかれると良いと思います。そういう方たちが参加しやすいということも結構大事なポイントです。緑化フェアなどに会議で関わっていると、ガーデナーの方からメッセージが来て、全然私たち知らないとか、関わりたいけれどどうしたら良いのか、などのご連絡を頂くことも結構あります。川崎市の方で、川崎育ちを緑化フェアを通じて、何かを実現できるようなメッセージを積極的に出すことはコンセプトにも近いですし、大事なことだと思います。

福岡幹事長

反町委員をお願いします。

反町幹事

具体的な話も出てくる中で申し上げておきたかったのは、本当にこの規模ですから、イベントの準備、植物の準備というのは、当然、もうそれなりにちゃんとしておかないと間に合わないと思います。それはもうおっしゃる通りで、一番メインの内容だと思うんですけど、コア会場以外のところで、例えばやはり、既存の主要な大規模イベントとの連携みたいなものというのはマストだと思っていて、たくさんあるんですけども、まだ、再来年度とはいえ、大規模なイベントほど1年前から、下手するとそれ以上前ぐらいから準備が始まるというところで、そうすると、本当に大きなイベントとの連携の準備について、少なくとも少し当たりをつけとくぐらいはしないと、もう実は時間はあまりないなと思いました。特に、何万人みたいな動員力を誇るイベントフェスティバルみたいなものには、今からもう下話ぐらいしておいて、この緑化フェアと連携をしたいというところとか、あと、PRにあたって緑化フェアのブースだったり、ちょっとインパクトある装飾とかを既存のイベントの1番良いところのできるのかなど、そういう場所についても、今から行っておかないと、別の全然関係ない、その年開催のメインコンテンツの何かがどーんと来ちゃうかもしれないですけど、今だったら、ここが一番いいところを緑化フェアで、という抑え方ができるのかなと思いました。

それから、もう一つは連携会場。これは具体的なイベントという意味ではなくて、場所なのですが、やはり資料にも書いてありますけれども、改めて川崎駅東口の駅前広場、あのヨドバシカメラの前ですね。最近、非常に大規模なイベントとして1番盛り上がったのが川崎夜市かなと思うのですが、そういったものが開催されている中で、あの場所は市の管理している場所ですし、PR効果や、装飾するにしても非常にやりがいのあるところで、平日に通行される方が、少し前の情報だと思うんですけども、5万人ぐらいらしいのです。ただあそこ通るだけの人ですけども、そこがもし、仮に、この緑化フェアをテーマに緑で埋め尽くされて情報発信ができて、例えばLEDディスプレイなのか、プロジェクションマッピングなのか、なんでも良いと思うのですが、そういうインパクトのあるものがあつたら、相当な効果が望めるのかなと思いましたので、ちょっとぜひ申し上げておきたいと思いました。以上です。

福岡幹事長

ありがとうございます。既存のいろいろなイベントとの連携で相乗効果を狙っていくことは大事かなと思います。ありがとうございます。

それでは次の次第もございまして、ここで一旦、次第に関する私の進行の方は、終了させていただきますと思います。皆様、貴重なお時間ありがとうございました。

本日皆様からいただきました御意見をもとに、事務局にて各事業計画の取りまとめを進めていただきたいと思います。今日見切れなかった御意見も多分あると思います。私も、よく忘れてしまったりはするのですが、多分、この後でもメール等で事務局の方にお伝えいただければと思いますので、ぜひ、よろしく願いいたします。それでは、ここで進行を事務局にお願いしたいと思います。

議事次第 3 実行委員会第2回総会の提出議案について

事務局（木村次長）

福岡幹事長、ありがとうございました。

また、皆様、御意見ありがとうございます。引き続き、進めていく段階で御意見を頂戴できればと思っておりますので、よろしくお願いいたします。それでは、次に進ませていただきます。事務局の方から、来月開催をいたします川崎市市制 100 周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェア実行委員会の第2回総会につきまして御報告をさせていただきます。

事務局（石垣課長）

引き続きまして、総会について御説明させていただきます。

第2回総会についてでございますが、3月24日の午後2時から3時半までというところで、今回は NEC 玉川事業場のルネサンスホールで開催をいたします。その中で、市制 100 周年記念事業の実施計画の案について御承認をいただきたいというところと、来年度の事業計画案、来年度の収支予算案について御審議いただくという内容になっております。こちら、緑化フェアにつきましても事業計画と収支予算を提出して、御承認をいただいて、来年度の事業を進めたいと思っております。

予算につきましては、2億8608万2000円を川崎市負担金として、来年度の緑化フェアにかかる金額として計上をしております。タウンニュースには4億円と出ていたと思いますが、なぜここは2億8000万かという、川崎市の方で直接整備する金額が1億円強ございまして、緑化フェアの実行委員会として支出すべき金額については2億8000万という形で計上をしております。事業費の中身については先ほど御説明いたしました、基本・実施計画をまず策定をいたします。それから、コア会場の実施設計をいたします。こちらしめて約2億円でございます。また、広報宣伝・PR活動の実施というところで4000万円、イベント等の実施というところで4000万円、こちらで計2億8400万円強という金額になっております。先ほど説明をいたしました資料を基本に、もう少し整えまして実施計画というものができてまいります。それに合わせ、引き続き、各会場の設計図ができてまいります。事前に行うイベントですとか、広報、それから、植物調達、そういったものの計画がこ

ここに全て含まれております。

各事業計画の実施、調整等に関しては、分野ごとの計画の中で、いくつか割り当てがございまして、ボランティアの説明に関する費用とかコンテンツの検討、そういったことや、令和6年が開催年度ですけれども、各種計画を実施に移す事前の準備を行うということが、来年度予算と事業計画案になってございます。以上でございます。

先ほどの皆様の御意見を伺った中でこちらの感想ではないのですけれども、やはり市内の事業者さんにぜひ関わっていただきたいと思っています。

先ほどの市民総参加の話で、専門家の方をどう入れていくか、専門家の市民をどう探すかということは、やはり難しいと思っております。昨今、オリンピックの問題で盛り上がっておりますけれども、そのような前例も考えながら、いかに効率的で、公平性で、かつ、メリハリをつけたやり方について、知恵を絞りながらやっていきたいと思っております。自主事業でどうやっていくのか、公募でどうやっていくのか、会場でどうやって市民参加をしていくのかなど、しっかり検討しながら進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

事務局（木村次長）

ただいま総会に関して御説明をさせていただきましたけれども、総会当日の報告事項といたしまして、緑化フェアの開催時期の変更を含む、緑化フェアに関する取組状況の報告もさせていただきます。事務局といたしましては、緑化フェアの取組状況及び令和5年度の事業計画案、収支予算案ということで、本幹事会の幹事の方から総会当日に報告、説明をしていただきたいと思っております。そこにつきましては、事務局案ではございますけれども、緑化フェアの取組状況につきましては、本幹事会の副幹事長でもあり、公園緑地協会にも所属され、川崎市の緑に携わっていただいている栗原副幹事長にお願いをしたいと思っております。また、事業計画案、収支予算案につきましては、こちらも本市の緑の維持管理部門に携わっていただいている今井幹事にお願いできないかと思っております。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

ありがとうございます。御両名とも、御了解いただいたということで、急なお願いで無理を申しますけれども、ぜひ、よろしく願いをしたいと思っております。

他の幹事の皆様につきましても、この総会につきましては御出席をいただくこともできますし、また、オンラインでも御参加いただけます。オンラインのURLにつきましては、総会の1週間前ぐらいにはお送りできるかと思います。もし参加される場合は、私どもに御連絡いただければ対応させていただきますので、よろしく願いいたします。

次第3につきましては、以上でございます。

次第4 その他

事務局（木村次長）

続きまして、次第4ということで、幹事の皆様から何かございますでしょうか。

特に皆様からはよろしいですか。事務局側もよろしいでしょうか。では、ないようでございますので、一通り、次第については以上でございますけれども、その他、市の職員等も参加しておりますので、何かございますか。

あと、都市緑化機構から上野部長がお越しになっていらっしゃいますが、都市緑化機構さんは、緑化フェアにおいては、川崎市と一緒に開催をする主体ということでございますので、なにかございましたらお願いします。

都市緑化機構 上野部長

ありがとうございます。

かわさきフェアに先立って、仙台フェアが御存じの通り、4月26日から開催されます。公式の行事として開会式など、同じものが開催されますので、できればそういった雰囲気とこのを見ていただければと思います。仙台フェアは、会場だけではなくて、駅を降りた瞬間から会場までフェアの雰囲気で持っていこうと皆さんやっておりますので、ぜひ街全体の雰囲気も味わっていただければと思います。以上です。

次第5 閉会

事務局（木村次長）

ありがとうございます。また、そのあたりの御案内もさせていただければと思っております。それでは以上を持ちまして、第2回緑化フェア幹事会を終了させていただきます。来年度につきましては、基本・実施計画の策定等を予定しております。幹事会は、4月か5月ぐらいに開催と思っておりますので、スケジュール等確認をさせていただいて、進めさせていただきます。

それでは、引き続きよろしく願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。

以上